

一般社団法人国際再生医療普及協会  
 特定認定再生医療等委員会議事要旨

日 時：2023年12月13日（水）15：40～16：25

開催場所：千葉大亥鼻イノベーションプラザ 1階会議室・Web

	摘要	氏名	出欠	利益相反	
				医療機 関	委員会 設置者
1	分子生物学、細胞生物学、遺伝学、臨床薬理学又は病理学の専門家	石井 伊都子	×		
		鈴木 邦子	○	無	無
2	再生医療等について十分な科学的知見及び医療上の識見を有する者	齋藤 康 ※委員長	○	無	無
		落谷 孝広	○	無	無
		寺井 崇二	×		
3	臨床医（現に診療に従事している医師又は歯科医師）	中林 正雄	○	無	無
		竹本 稔	○	無	無
		佐野 明彦	×		
4	細胞培養加工に関する識見を有する者	木田 泰之	○	無	無
5	医学又は医療分野における人権の尊重に関して理解のある法律に関する専門家	中村 智広	○	無	無
6	生命倫理に関する識見を有する者	川上 祐美	○	無	無
7	生物統計その他の臨床研究に関する識見を有する者	林 邦彦	○	無	無
8	前7号に掲げる者以外の一般の立場の者	宮内 明子	○	無	無
		中山 ちはる	×		

配付資料（事務局受領年月日；2023年11月15日）

資料1 提出資料\*1～33

資料2 評価書（技術専門員：千葉大学医学部 麻酔・疼痛・緩和医療科 田口奈津子准教授

資料3 チェックリスト

参考：提出資料一覧

一般社団法人国際再生医療普及協会特定認定再生医療等委員会規則第6条第3項の定めにより、齋藤委員長は議長となり、本委員会の開会を宣言し、本日の出席委員を報告した。ついで本委員会の審議に必要な法定の成立要件を充足している旨を述べた。

審査：新規

医療機関：東京ココセラクリニック

管理者：篠崎 智公

議題：ヒト自己脂肪組織由来間葉系幹細胞を用いた疼痛緩和治療

結果：適

管理者より新規の提供計画書の内容について説明がなされた。

技術専門員の評価は、以下の通り。

- ・特徴としては、比較的安全性が確立された方法となっており、効果は期待できると考える。

- ・注意すべき点は、慢性疼痛と大きく分類される中には神経障害性疼痛、永続する侵害受容性疼痛、心理社会的な側面が大きく関与する疼痛などさまざまである。特に後者の症例が多くなると、全体として疼痛緩和の効果が減弱してしまう可能性がある。そのため、初期のスクリーニングで ある程度患者を分類できるような問診があると良い。

ペインクリニックの医師が痛みの評価を行うとのこと、懸念は解決されると思われた。

- ・メリット：疼痛の緩和ができる、副作用が少ないこと。
- ・デメリットは脂肪組織採取の新たな創傷ができること
- ・総評は、治療としては確立した方法となっており、安全に行うことが可能であり、効果を期待したい治療法である。

質疑において、対象とする患者像に関する確認がなされ、関節への局所投与が必要となるような患者は除外すると申請者より説明があった。

主な質疑内容については、別途に記す。

審議の結果、提供計画書の概要には問題無いが、安全性に関する記載が不足しているという意見となり、修正の上で承認とすることとなった。

修正を確認する条件において、参加委員全員の一致をもって「適」と判断した。

委員会審議後、2024年1月5日に指摘事項が修正された申請資料の確認が完了した。

よって、1月5日付の意見書発行となった。

以上